

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502199		
法人名	北海ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム北海ハウス(1Fさくら)		
所在地	札幌市白石区北郷7条3丁目8番12号		
自己評価作成日	令和3年10月11日	評価結果市町村受理日	令和4年1月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170502199-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和3年11月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念である「笑顔で明るくやさしく」を基本に、各ユニット毎の理念を作り、毎朝唱和し、実践に努めています。利用者様の残存能力を発揮して頂けるよう、一人ひとりの力に合わせた役割や楽しみ事を見つけ、利用者様と職員が助け合って生活しています。定期的にホームパーティーを感染予防策に注意を払いながら開催して利用者様同士が交流したり、屋上で障がい福祉サービス事業所ワンダホープと協力し家庭菜園を行い、メニューに取り入れています。毎日の食事では、栄養のバランスを考えながら利用者様と一緒にメニューを考えたり、旬の食材を取り入れて提供し「美味しかった」という声を頂いています。日々の業務では、タブレット端末を導入し、利用者様の状態を把握、共有できるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はマンションや一戸建、ビルや商店が混在し、JR白石駅や道央道札幌・北郷ICなど車で数分、バス停からも近く交通の便が良い場所に立地している。建物は鉄筋コンクリート造3階建てで屋上に菜園を有している3ユニットの事業所である。代表者は長い間町内会役員をすることで地域に根ざした活動を担っており、災害訓練でも消防団員の協力等を築いている。地域住民とは相互の行事等で交流する機会があり、また、保育園児が毎年定期的に訪れて、利用者と一緒にカルタや折り紙などを楽しんでたが、コロナ禍により交流は現在自粛している。事業所では利用者へのよりきめ細やかなサービスを提供する為に、数ヶ月前からタブレット導入して日々のサービスに活用している。各フロア毎にはタブレットを備え付け、職員は必要なサービス状況や内容を入力した結果を管理者は日々確認をしている。申し送り事項やバイタル情報、投薬、入浴や排泄情報、食事や日常の写真、動画、会話などを保存し、可視化しながら家族に説明などに活用している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念の他、新たにさくら理念を作成し、朝夕の申し送り時に唱和し、理念を共有し実践につなげている。	運営理念は玄関ホールと職員室に掲示し、ユニット毎のケア実践の為の理念が新たに作成されており、その理念も事務室の壁に掲示し毎朝唱和することで共有している。	運営理念やユニット理念を広報誌やパンフレット等に記載し、入居希望家族や地域住民等の外部の方々に理解してもらうような取り組みを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業主が自ら町内会役員となり、町内会の行事に参加出来るようになっている。又、町内会の方が時々タオル等を持ってきて下さり、気にかけて頂いている。	運営法人代表者は町内会の青年部役員であるため、町内行事や事業所行事での交流も活発であったが、コロナ禍により交流は自粛している。ボランティアとの連絡も取り合っている為、コロナ終息時には連携できるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時には、町内会の民生委員の方々や、地域包括支援センターの職員様より地域の高齢者の実態についてのお話を伺ったりし、相談等を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にてホームでの取り組みや、利用者様の近況報告を行い、参加者様より意見や情報を得て、サービスの向上に活かしている。	民生委員、包括支援センター職員が出席して運営推進会議を年6回開催しているが、コロナ禍の為ソーシャルディスタンスを取りながら、また常時換気を取りながら実施している。会議では運営報告、事故報告、行事報告や予定、包括センター職員からの情報の発表があり議事録は利用者家族に郵送している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者とは密に連絡を取り合い、不明点は、電話等で確認をし、指導や助言を得ている。	コロナ禍によりグループホーム管理者会議の開催は無かったが、情報交換などは継続している。生活保護の関係書類などの申請や更新手続きでは電話や部署を訪れ指導や助言を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の理念と方針を掲げ、指針を整備し、3か月に一度身体拘束適正化委員会を開催し、全員で共有し、不快感のないケアを目指して取り組んでいる。	年4回「身体拘束など適正委員会」を開催し議事録は各フロア毎職員で回覧し 確認印で共有している。行動抑制の言葉やセンサーを使わないケアを実践し、オートロック機能や見守りを生かし安全面に配慮している。ベッドで起き上がるときには転倒防止用として補助具を使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止の為の勉強会を開催し、日々の業務時も職員同士で検討し、防止に努めている。		

グループホーム北海ハウス（1Fさくら）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を作るよう努めているが、現状では活用したい方がおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等には相手の方の立場でわかり易い言葉で説明し、不安な事や疑問点を確認しやすいように導き、理解・納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とは、日常生活の中から意見・要望をお聞きし、御家族様とは、来訪時や電話等で意見交換を行い、運営に協力して頂いている。	コロナ禍により利用者家族の面会制限が有るが事前の電話より出来るだけお互いの顔が見えるように配慮している。家族の来所持の会話や利用者の日々の関りから要望や意見を汲み取るように努め 申し送り時に発表し共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は定例会議で職員が自由に発言する機会を設け、日常業務でも発言し易い環境を作っている。代表者とは2ヶ月に一度運営会議を行い、職員の意見要望等を伝えている。	2ヶ月毎に系列4事業所が法人の運営会議に出席し、職員から出された意見や提案を伝え、運営に反映させている。管理者は会議等で職員が自由に発言する機会を設け、日常業務でも話し易い環境を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	国の労働基準に合わせ、働き方改革を遵守し、就業規則を都度整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスの影響で外部研修には参加出来ていないが、その時々に応じた内容の勉強会を開催し、日々の業務に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの感染状況を注視し、交流を図って行けるよう、地域管理者会への参加や、オンラインでの研修の参加を検討している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化により常に不安な状態な事を念頭に置き、本人の訴えや要望を伺いながら信頼関係を築けるように努めている。		

グループホーム北海ハウス（1Fさくら）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時にご家族が不安に思っている事や要望を伺い、今後どのような暮らしを望まれているのかを聞き入れ、関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の情報とその時の状態を把握し、出来る事、出来ない事を見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護される方の立場に立ち、本人の訴え等を傾聴し、会話を楽しみながら関係を築き、支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族と本人の絆を大切に、連絡を絶やさず、協力し合い、共に本人を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類の方や馴染みの方との面会や外出は現在制限があるが、電話等で関係が途切れないように十分に配慮し、支援している。	コロナ禍で知人や友人等の面会は制限があるが、面会希望がある場合は玄関ホールを利用しながら出来るだけ会えるよう支援している。不定期だが概ね2ヶ月に1回の訪問美容があり、馴染みの関係を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前、午後と皆で集まる時間を設け、居室で閉じこもらないように声掛けをし、皆で談笑出来るように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は必要に応じてフォローしたり、相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話や食事の時、入浴時等に聞いた思いなどをタブレット端末の経過記録に残し、職員間で共有し、上手く言葉で表出できない方にも意に沿えるように努めている。	家族の来所持に利用者の日常の行動や会話などを記録している動画をタブレットで見れるよう支援し、利用者の思いを伝えている。北海ハウス通信では日常の生活写真やコメントを添え議事録と共に郵送し、新たな情報は介護日誌、タブレットに記録して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報や、入居されてからの会話の中で汲み取り、今までのような生活が継続できるように努めている。		

グループホーム北海ハウス（1Fさくら）

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	タブレット端末を使用し、一人ひとりの生活リズムの把握に努め、個別ケアを行っている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアの中で職員が情報を共有しながらご本人、ご家族にお話を聞き、都度モニタリング、サービス担当者会議を開催し、介護計画の見直しを行っている。	計画作成者はタブレットにある介護記録の詳細なデータと利用者と家族の意向を反映させながら短期6ヶ月、長期1年の介護計画書を作成し、家族の同意印を得ている。利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直し、利用者や家族等の確認を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット端末の経過記録や介護支援経過に記録し、日々の情報の共有化を行い、実践や介護計画の見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに合わせたサービスが出来るように取り組み、生活のペースが変わられた方には、その方に合わせたサービスを提供している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容等を利用しながら暮らしの支援を行っている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週来られる往診医に状態を報告し、本人自らも相談して関係を深めている。	協力医による訪問診療が隔週毎に健康管理を実施している。夜間を含む24時間体制では主治医等と連絡を取り合い、往診を含め主治医の指導を得ている。薬は薬局で一包化や状況に応じ別包している。感染症ワクチンやPCR検査（6回）等は当事業所で行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に利用者様の日常の情報や気づいた事を伝えて相談し、提携病院の看護師とも連携し、受診や検査、往診が受けられるように支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、利用者様の情報を提供し、早期に退院し受け入れられるように相談や情報交換を行っている。			

グループホーム北海ハウス（1Fさくら）

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応方針を説明し、重度化しつつある時は、早い段階からご家族様、医師と話し合いを行い説明し、方針を共有しながら支援している。	入所時に利用者と家族に文書と口頭で「重度化した場合の対応方針」の書面を説明し同意を得ている。重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から利用者や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら指針を職員間で共有し、ターミルケアを実践している。				
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時・事故のマニュアルを備え、全職員が実践できるよう勉強会を行っている。					
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災、地震を想定した避難訓練と、年に1回の水害を想定した避難訓練を実施し、地域の方や障がい福祉サービス事業所ワンダホープにも協力して頂いている。	年2回の避難訓練（日中と夜間想定）を実施しているほか、水害時の訓練では隣接の障がい福祉サービス事業所の協力のもと、垂直移動を実施している。また、地域の消防団との連携を継続している。備蓄品（飲料水と食料品）の他、災害備品としてカセットコンロ、石油トープ、非常用発電機を用意している。				
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮しながら言葉遣いに気を付け対応している。	人としての誇りを損ねるような言葉かけや対応をしないよう配慮している。北海ハウス通信への氏名や写真掲載については個人情報やプライバシーについて説明し同意を得ている。				
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が思いを表出できるよう傾聴し、日常の様子や会話などからも汲み取るように努めている。					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしができるように、個々のペースに合わせて支援している。					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や場所、又はその人の希望に沿えるような身だしなみの支援をしている。					
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめるように季節の物を取り入れた献立を考え、時には入居者様に食べたいものを聞き、メニューに取り入れている。	各ユニットでメニューを決め、近くのスーパーで食材を購入している。誕生日はユニット別でケーキなどで祝っている。また、ユニット毎でバーベキューも楽しんでいる。利用者は能力に合わせて配膳や調理などに参加している。				

グループホーム北海ハウス（1Fさくら）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様全員の水分摂取量、食事をタブレット端末を使用して把握し、その日の状態に応じた提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けを行い、必要に応じて見守り、介助を行い口腔内の清潔を保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔をチェックし、パターンを把握して自力にて排泄できるように声掛け、誘導を行い支援している。	チェック表で利用者それぞれの排泄パターンを把握し、時間毎に、あるいは様子を観察しながら声をかけ、誘導を行っている。リハビリパンツやパット、ポータブルトイレの利用など、状態に合わせた排泄用品で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂取していただいたり、排便を促進するような食べ物にも気を付け予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めず、その人の希望や体調に合わせて入浴出来るように支援している。	入浴は週3回を基本としているが、利用者の体調や希望にあわせて入浴できるように取り組んでいる。入浴が苦手な利用者にはタイミングを含め柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中疲れた様子が見られる際は、休息できるように声掛けを行い、生活のリズムを整えて夜間安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服用している薬を職員が把握し、症状の変化があった際は、施設の看護師や、提携病院の医師、看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた役割を持っていただき、季節の行事やホームパーティーを開催し、楽しみ事を支援している。		

グループホーム北海ハウス（1Fさくら）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で外出はできていないが、屋上へ職員と行けるように支援している。	コロナ禍により日常的な外出は自粛している。利用者の高齢化に伴い外出希望が少なくなったが、屋上にある菜園で野菜作りをする等、外気を浴びられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方も居られるが、欲しいものは、いつでも買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の方とお話したい時は、何時でも電話をできるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所はゆったりと過ごせるようにテーブルや椅子の配置に気を付け、室温、湿度調整や刺激となることに気を付けている。	建物は24時間換気システムを採用し一年中快適な温度管理をしている。また、定期的に床やテーブルなどの消毒を行って、感染症予防に努めている。壁には利用者の季節に合わせた作品を飾り落ち着いた環境で利用者はゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるようにテーブルや椅子を配置し、気の合った同士と一緒にいられるように居場所を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に歯馴染みの物を持ってきてもらい、タンズ等の配置は災害発生時危険でないように相談しながら、心地よく生活できるようにしている。	カーテン、ナースコール、パネル暖房、テレビ配線が備わっている。利用者がこのグループホームで不安なく安心して暮らせるように、今までの自分の生活が続けられるように馴染みの家具や居室の雰囲気作りを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの居室前には、メモリアルボックスを設置し、自身の部屋とわかるようにしている。		